

玉椿

千代に八千代や玉つばき花の都はなくなれどつくしの海の果もあり
 今波風も治まりて静かなりける君の代の目出度かりけるされば又春
 は花見の櫻狩秋は紅葉の唐にしき着て來る人の衣手は折に觸れたる
 装ひにて色めきわたる面白や鶴と龜とは萬代の齡を君と契てや汀の
 池に遊ぶらん命ながきの恨みなし住む諸人の心こそ樂しみつきぬ數
 々は濱の眞砂に譬ふらんかゝる御國に生れあひ憂きを知らず長らへ

て明し暮せし命こそ甲斐なき豊かなる時に逢ふ身は之れぞ生れぬ先
 きの契りなるらめ。

音譜 節付 新曲 琵琶歌 終

270
367

大正元年八月二十日印刷
大正元年八月廿五日發行

定價金二十五錢

不許
複製

編者 榎本松之助
發行所 大阪市西區阿波堀上通二丁目一六九
印刷所 上野惣太郎

發行所

大阪市南區松屋町通末吉橋北へ入

榎本書店

(大阪振替口座三四八二番)

臺灣入 右田の港 月下の陣
川中嶋 松 和 強
金剛 春 日野 舟 由 侍
公 隊 船 那 須 與 市
頼朝七騎落 小 塔
毒 鐵 頭

終